

◆訪問医療マッサージを考える会つくば とは？

つくば市内での在宅における訪問医療マッサージの現状を少しでも改善させ、利用者やその家族に喜ばれるよう、市内のマッサージ師（鍼灸師も含む）有志で2015年に結成しました。（2016年1月現在、マッサージ師3名、鍼灸師2名所属）

マッサージ師ってどんな仕事？

私たちの仕事は、「あん摩マッサージ指圧師」という資格で、認定された学校で3年間、勉強と実技の練習をし、国家試験を合格した者が現場で活躍しております。整体やカイロプラクティックといったものは国家資格ではなく、独自に認定しており、私たちのような国家資格保有者にのみ「医療保険を利用した保険でのマッサージ」が行えるような制度となっております。

また、「鍼師・灸師」も同じように国家資格であり、マッサージと同様に鍼灸の施術も「対象となる傷病に対して保険での施術が可能」となります。

保険を利用したマッサージも鍼灸の施術も、医師の「同意書または診断書」が必要となります。

マッサージの施術は、痛みの除去や血行改善、筋肉の緊張の軽減、関節周囲の硬さの軽減を目的に、押す・揉む・擦るなどの施術を行います。また、関節のこわばりや動きにくさには、運動法（ストレッチや関節可動域訓練のような施術）を行うことで、こわばりや動きにくさの解消・軽減の効果が期待できます。手を当てる施術で患者様との距離が近いため、心理的にも打ち解けやすくなり、心身ともにリラックスして施術を受けていただいています。

また、寝たきりや車いすの方、歩行困難の方の場合、訪問して施術をすることも可能です。



発行：訪問医療マッサージを考える会つくば
事務局：こぼり治療院（つくば市横町368-5）
029-869-9979 info@kobori-chiryoin.com

マッサージでできること④ ～症例を参考に～

【痛みと関節の動きが良くなりました】

Hさん(54歳)男性「脳梗塞による片麻痺の方」

四肢（とくに麻痺側）の痛みと筋緊張が強く、日常生活に支障が出ているHさん。痛みが強い日は就寝中も辛くて起きてしまうほど。車いすで生活していて、麻痺により関節の拘縮も著明な方です。

上肢と下肢へ全体的にマッサージの施術を行い、ゆっくりとストレッチや関節可動域訓練等も継続して行いました。少しずつ筋緊張と痛みが和らいでいき、日中の辛さが軽減し、就寝中も痛みのために起きることがなくなりました。関節の動きは拘縮があるため制限はありますが、以前より動きと痛みが良くなり、ご本人もご家族も満足されています。

鬼怒川水害避難者支援から学んだこと

今回の報告で4回目になりますが、災害時におけるマッサージ施術は、極限の緊張状態の方々に少しでもリラックスしてもらえたり、被災者のニーズを掘り起こす機会にも繋がれると、改めて考えさせられました。今回は、補助金や罹災証明、NPOの支援活動の情報などを施術中に伝えられたり、同居家族が避難せず支援対象に入っていないことを行政に繋がったりできたのが、その良い例だと思います。

被災者は自宅の片付けに手一杯ですし、行政や支援団体も混乱して手が足りない状況ですから、両者を繋ぐ立場は、少しでも必要でしょう。

気後れせず、もっと積極的に施術ボランティアに入る方が良い、と学んだ2ヶ月間でした。

ご協力頂けた関係者の皆様には、感謝の念に耐えません。ありがとうございました。

最後までお読み頂いてありがとうございます。
当会や訪問医療マッサージについて、ご興味・ご関心をお持ち頂きましたら幸いです。